


御前山ビオトープ通信

平成17年3月30日

第13号

編集： NPO「美しい田園21」 清野 

メール：denen21@hb.tp1.jp

ホームページ：

(本号はホームページ掲載記事を再編集したものです)

【案内図】



目次

- 1 不耕起栽培勉強会を開催
- 2 「御前山の自然を考える」シンポジウム開催

1 不耕起栽培勉強会を開催

日時：2月22日（火）午後3時から

場所：常陸大宮市（旧御前山村）大字桧山 桧山公民館

御前山ビオトープでは平成16年度、その一角に古代米を栽培して、田植え、稲刈り、足踏み脱穀など、子供達と一緒に自然と触れ合い楽しみながら営農体験をしてきました。

平成17年度も継続する予定ですが問題は「代かき」です。田んぼには子供達が移植したハチョウソウのヤゴやカエルのオタマジャクシを始め、多くの動植物が生息しており、生息環境への悪影響が懸念されます。

そこで、代かきをしない、環境にやさしい農法として「不耕起栽培」について勉強会を実施しました。常陸大宮市国長で「自然農法」を実践している「岸元春さん」に講師をお願いしました。

不耕起栽培について



田んぼを耕すことなく行う稲作のこと。土は固くなるが、多くの栄養を吸収するために稲はしっかり根を張ろうと頑張ります。

結果として稲が野生化して強くなり、農薬が無くても害虫に負けず、冷害にも強く、おいしい米が収穫できると言われている。雑草も減り、除草の手間も削減できるという。福岡正信さん（伊予市）が提唱し、岩澤信夫さん（日本不耕起栽培普及協会会長）が改良した農法。ダム流域ではシロカキによる濁水がなくなるので水質改善効果があり琵琶湖周辺ではかなり普及しています。

2 「御前山の自然を考える」シンポジウム開催

平成17年3月23日(水)午後3時から常陸大宮市野口の国民宿舎「御前山荘」において「御前山の自然を考える」と題したシンポジウムを開催しました。

水戸藩時代から御料林として豊かな自然環境が保全されてきた御前山について幅広い市民が参加して考えるものです。御前山ダム環境保全委員会の委員長でもある茨城大学名誉教授「鈴木昌友教授」による基調講演等が行なわれました。

地元、環境関係、学校関係、ダム関係者などから百数十名が参加しました。

挨拶： 長山前御前山村長

関東農政局次長



基調講演「御前山の自然」

茨城大学名誉教授 鈴木昌友教授



国営事業所から、御前山ビオトープなどの取組状況の説明と、今後の管理や実施体制などについての提案がありました。

また、シンポジウムの後、懇親会も開催され、交流、意見交換が図られました。

